

2010年(平成22年)11月18日(木曜日)



藤山理事長

多店舗出店型を解説

再開発ビル活性化
NWが情報交換会

NPO法人再開発ビル活性化ネットワーク(藤山正道理事長)は15日、大阪市中央区のハートンホールで2010年情報交換会を開いた。関係

者ら約60人が参加し、有益な情報を共有した。

情報交換会では、ストリームの相馬一郎代表取締役が「空き床対策としての『築市楽座』」をテーマに、同社が手掛ける多店舗出店型マーケットについて解説した。

同社は岐阜県のショッピングセンター「リオワールド」からイズミヤが撤退した2階のフロアで「平成築市楽座」として09年に事業展開を始めた。

築市楽座は、複数の店舗がひとつの売り場にブースを構える専門店街のようなもの。店舗の負担をさらに軽減し、魅力的な売り場を形成している。

集中レジを採用していることで店舗ごとに支払いをしなくて済むなど、消費者にも好評な上、同センター他店舗の売り上げが上がるなどの相乗

効果も起きている。

同様の業態でことし4月に千歳築々市場(北海道)、6月に仙台築市(宮城県)、10月には甲府築市(山梨県)をオープンした。12月には千葉県、11年3月には静岡県、4月には北海道でそれぞれオープンする予定だ。

相馬代表は、「継続的に同じ店舗で同じ業態のまま商売を続けるのは不可能な時代になってきている」と指摘し、築市楽座の有効性をアピールした。

情報交換会ではこのほか、近畿経済産業局流通・サービス産業課の中島和男中心市街地活性化課専門官が「中心市街地・商店街活性化策」について、大阪府都市整備部市街地整備課の谷田公宏再開発グループ総括主査が「大阪府の市街地市開発事業の現状」について、それぞれ講演した。